

授業科目	リハビリテーション医学				
担当者	本多知行・PT 専攻教員・OT 専攻教員				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・言語聴覚療法に必要なリハ医学の基礎知識や対象疾患を理解し臨床場面でリハアプローチを実践できるような基礎的事項の習得を目標に講義する（本多）
- ・1）理学療法士及び作業療法士の役割とその対象について学ぶ。
- ・2）理学療法及び作業療法のリハビリテーションの実際について学ぶ。（PT / OT 専攻教員）

■ 到達目標

- ・言語聴覚療法に必要な医学の基礎知識とリハビリテーションの概要を理解し、リハ対象患者の全体像を把握しアプローチできるような臨床的考え方を身につける。（本多）
- ・1）理学療法士及び作業療法士の役割と対象について説明できる。
- ・2）理学療法及び作業療法のリハビリテーションの実際について理解できるようになる。（PT / OT 専攻教員）

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーション医学の歴史を知り現在の考え方を身につける（本多）
- 第2回 リハビリテーション医学の対象を知り対象者にとってどのようなリハビリテーションが重要であるのかを考えることができる（本多）
- 第3回 リハビリテーション医学の対象者を理解するために必要な検査と評価法を身につける（神経学的評価・運動の評価と分析・ADL評価とQOL、生理的検査など） 1（本多）
- 第4回 リハビリテーション医学の対象者を理解するために必要な検査と評価法を身につける（神経学的評価・運動の評価と分析・ADL評価とQOL、生理的検査など） 2（本多）
- 第5回 リハビリテーション治療概念（ゴールとプログラム設定・リスク管理・チームアプローチ）と各種治療法（理学療法・作業療法・物理療法・補装具および福祉機器など）の重要点を理解できる（本多）
- 第6回 脳損傷（脳血管障害、頭部外傷など）による障害を理解しそのアプローチ方法と対処法を述べることができる 1（本多）
- 第7回 脳損傷（脳血管障害、頭部外傷など）による障害を理解しそのアプローチ方法と対処法を述べることができる 2（本多）
- 第8回 神経筋疾患（筋萎縮側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィーなど）や末梢神経損傷の障害を理解しそのアプローチ方法と対処法を述べることができる 1（本多）
- 第9回 神経筋疾患（筋萎縮側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィーなど）や末梢神経損傷の障害を理解しそのアプローチ方法と対処法を述べることができる 2（本多）
- 第10回 脊髄損傷、骨関節疾患、循環器呼吸器疾患、高齢者（認知症）、脳性麻痺、自己免疫疾患、悪性腫瘍、廃用症候群などの疾患と障害を理解し、リハビリテーション概要を述べることができる 1（本多）
- 第11回 脊髄損傷、骨関節疾患、循環器呼吸器疾患、高齢者（認知症）、脳性麻痺、自己免疫疾患、悪性腫瘍、廃用症候群などの疾患と障害を理解し、リハビリテーション概要を述べることができる 2（本多）
- 第12回 理学療法士の役割と対象（PT 専攻教員）
- 第13回 理学療法の実際（PT 専攻教員）
- 第14回 作業療法の役割と対象（OT 専攻教員）
- 第15回 作業方法の実際（OT 専攻教員）

■ 評価方法

筆記試験60% レポート40%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義終了後は復習し、分からないことがあれば次回の講義時に質問すること。

レポートは宿題としますが、教科書を見ずに授業を学んでの自分なりの意見をしっかりと記載のこと。

■ 教科書

書名：見て知るリハビリテーション医学

著者名：柳澤信夫監修・小松泰善編集

出版社：丸善出版

■ 参考図書

書名：リハビリテーション医学テキスト（改定第4版）

著者名：三上真弘監修・出江紳一・加賀谷斉編集

出版社：南江堂

■ 留意事項

1～11回は遠隔授業で実施。

また、12～15回についても、新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって